北 一明（きた かずあき）略年譜

1934年11月14日
長野県飯田市に生まれる
法政大学社会学部卒業、
同大大学院中退

1972年　焼き物に関して独学、
東京中野に築窯

1973年　第１回個展「陶土塊展」　日本橋丸善画廊

1974年　陶芸史上において唯一の謎とされていた「耀変」のメカニズムを解明

1974年　「北 一明　陶土塊展」　新宿京王百貨店創業10周年記念行事展

1980年　「北 一明　鎮魂彫塑・陶芸展」　広島そごう

1982年　「北 一明　鎮魂彫塑・陶芸全貌展」銀座アートホール
「北 一明　彫塑・陶芸北アメリカ巡回展」（～1987年まで）

1984年　法政大学多摩キャンパス社会学部棟に「不戦の誓い-泉」「夢」制作

1984年　「北 一明　彫塑・陶芸展」（ポーランド国内10都市を巡回）（～1987年まで）

1987年　アメリカの知識人、美術館関係者より、ノーベル平和賞に推挙される

1990年　「北 一明　創造美の世界展」に１万人が来場（中国上海市文化局主催）

1991年　「日中友好一衣帯水記念展」日中友好会館美術館

1992年　「北 一明　創造美展―創造20周年記念」銀座ミキモト
「北 一明　創造美の世界展」　北京革命博物館　日中国交20周年記念

1993年　アメリカ　ハリスバーグ市（スリーマイル島所在）名誉市民となる

2000年　「核新紀元56年極北美の独白小展」なかのZERO美術ギャラリー

2012年　10月19日長野県飯田市にて死去　78歳

代表作品収蔵著名美術館

（国内）根津美術館、広島平和記念館、五島美術館、長崎国際文化会館、法政大学多摩キャンパス

（海外）大英博物館、バルセロナ国立陶芸美術館、ブルックリン美術館、エルミタージュ美術館、セーブル国立陶芸美術館、故宮博物院（台湾）マイセン国立陶芸工房、ボストン美術館、ベオグラード国立博物館、キーウ東西文化美術博物館、南京大虐殺記念館、北京中央工芸美術学院、上海美術館、上海魯迅記念館、釣魚台国賓館

北一明記念館のご案内

所在地 長野県飯田市江戸町4-313-1

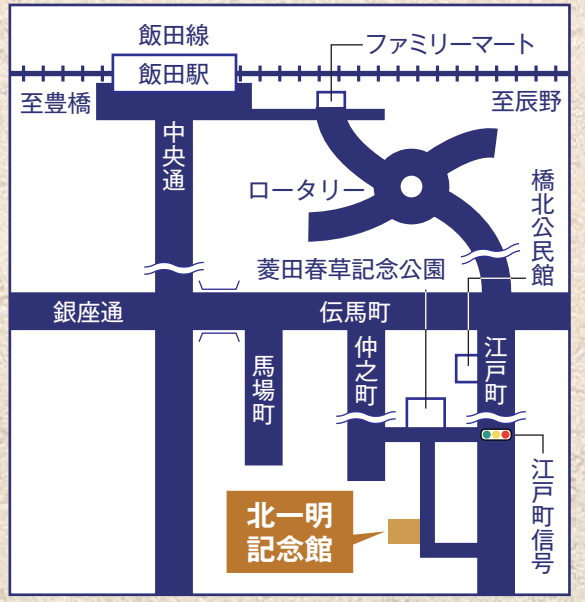
詳細はホームページをご覧ください。

https://www.kitakazuaki-kinenkan.jp

なお見学希望の方は下記あてご連絡ください

連絡先 080-6528-2504　田中

入館料 無　料



電車 中央線辰野駅から飯田線にて、飯田駅下車
東海道新幹線豊橋駅から飯田線にて飯田駅徒歩20分

バス 東京方面からは新宿駅バスタより
名古屋方面からは名古屋駅前名鉄バスセンターより
いずれも直通バスにてJR飯田線飯田駅まで直行

看板題字：河野奈穂子氏

反戦・反核の芸術家

北一明記念館

北 一明（本名下平昭一）記念館について

北 一明は長野県飯田市に生まれ育ち、法政大学卒業後、独学で学んだ陶芸技術によって、1980～90年代、主に東京、そして国外で反核、平和を訴えた芸術家です。独自の「耀変天目」を作り、茶碗、茶盌、デスマスクで具現化しました。ヒロシマ、ナガサキ、アウシュビッツ、南京の土を練りこんだデスマスクは、日本の知識人だけでなく、アンリ・ルフェーブル等世界の文化人、平和運動家などに賞賛され、ノーベル平和賞にもノミネートされました。福島原発事故の30年前、アメリカ、スリーマイル島の原発事故の地で巡回展を開催し、警鐘を鳴らしました。

北 一明は、地元南信新聞の主筆、書道家であった父、下平政一の影響を受け、生まれ育った信州、伊那谷の自然風土に育まれ、そして当時の知識人との交流によって、思想家、書家としても活躍するようになりました。

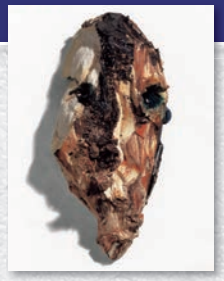
1990年からは焼き物と書の遡源の地、中国で展示会を開催、ひときわ高い評価を受けるなど、日中交流に貢献しました。今は核大国入りした中国ですが、現在に至るも中国で反核の作品展が開催された例はありません。

彼の作品の一部は国内外の著名な博物館や母校の法政大学、出身地の飯田市にも収蔵されています。

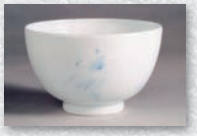
長く活動拠点を東京に置いた北ですが、生涯を終えた飯田に記念館を開設することは、反戦、平和を訴え続けた北にとってふさわしいと言えるでしょう。

北 一明記念館は、生家である飯田市江戸町の離騒一宇を改修した小さな記念館です。文化と教養に溢れた飯田の街で、菱田春草記念公園など、文化の拠点の春草通りの一角に、飯田の共通の財産として更に新たな息吹を添えることになるでしょう。

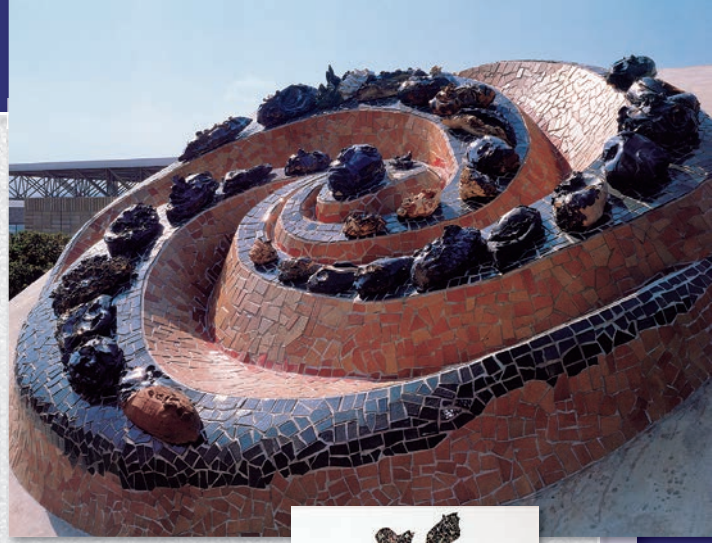
「怨涙の新復活」


㈶五島美術館蔵
「アウシュヴィッツの戦慄」

「青玉釉波状彫文水指」


白麗肌磁呉須字書盌
「行雲流水」

「玳皮多虹彩白流聖湖盌見込」


法政大学多摩キャンパス社会学部棟
「不戦の誓い-泉」

国内外識者の発言

上智大学名誉教授（社会学）　鶴見和子

広島と長崎の死面は、日本人の被害体験の記念である。これに反して、南京の死面には、加害者としての日本人の、痛恨の自省がこめられている。

明治大学教授（日本政治思想史）　後藤総一郎

「陶芸」を通しての「反核・反戦」の思想を表現しようとする北さんの創造的造形作業は、中国の人びとに二重の驚きを呼び起こすこととなろう。

広島大学名誉教授（美学）　金田　晋

肉厚の重い土塊が、突如魂のうめきへと変生してくる。掌に包まれるような茶盌のつくる凹の空間の中に、無際限の耀変に彩られながら、雨中の底なしの淵にしずんでゆく。釉薬の薄い皮膜と陶土との距離ははかりがたく遠い。

（美術評論家）　今田英明

氏の創り出す、表皮的視覚美としての顕現美と光の照射諸条件の変化により多彩な虹彩を放つ潜在美とが同時併存（共存美）する独特の重層的マチエールは、意識的に制作されたものとしては嘗てなかったものではないだろうか。

「絶望乃為虚妄
正与希望相同」　魯迅

「夢誘う」

（哲学者　フランス）　アンリ・ルフェーブル

私が今視てきた（というより自らすすんで凝視した）芸術作品は、ひとつの新しいメッセージをもたらすものである。…ある種の化学、ある種の権力支配が内に秘める死の意志を告発し、攻撃している。

（国際ジャーナリスト）　W・ヴァーチェット

その一つ一つの作品の耀変の光をつうじて、北一明の人格ならびに平和と人類の生存への確信が輝いている。

（中国仏教会会長、中国書法家協会副会長など歴任）趙　撲初

芸術家がこのような立派な作品をうみだすことは、兵隊の持つ武器よりも強い平和愛好の心の武器を人々に持ってもらうことになります。

（掲載順不同）